



期末考査、県模試など、お疲れ様でした！

先日、1年生の担任の先生が「生徒から『赤本って何ですか？どこにあるんですか？』と質問された」とおっしゃっていました。4月8日の「新入生オリエンテーション」での話を覚えてくれたのでしょうか。あるいは、担任の先生や先輩から赤本に関する話を聞いたのでしょうか。いずれにしても、1年生なりに、進路実現に関わることに興味をもってくださることを嬉しく思いました。また、3年生の皆さんは、そろそろ赤本を活用し始める時期ですね。そこで、今回は「赤本」の使い方などについて特集します。

## ■「赤本」とは？

「赤本」とは、「教学社（きょうがくしゃ）」という出版社が発行している、共通テストや各大学の過去問題集のことです。写真のように、表紙が赤いので、通称「赤本」と呼ばれています。赤本には、共通テストの特徴がつかめる「共通テスト赤本シリーズ（共通テスト過去問研究）」、大学別の過去問が収録された「大学入試シリーズ」、東大・京大をはじめとする難関大学に特化した「難関校過去問シリーズ」などの種類があります。また、最近では、小論文に特化したシリーズなども発行されています。書店や地域の図書館にも並んでおり、金高では、進路資料室（北校舎2階、一番西側にある部屋）に過去5年間に購入したものが置いてあります。必要な人がいつでも見ることができるようにするため、貸し出しは行っていません。資料室内の生徒用コピー機で必要なページをコピーして使ってください。

因みに、過去問題集としては、他にも、駿台予備校（駿台文庫）が発行している通称「青本」や、河合塾（河合出版）が発行している通称「黒本」もあります。黒本は共通テストの過去問のみであり、青本は共通テストと難関大学の過去問が中心です。



進路資料室には様々な大学の赤本がズラリ。気軽に見に来てね！

## ■赤本の使い方 ～合格につなげる過去問活用法～

共通テストの傾向と対策については、大学入試対策講座や3年生の授業などで取り上げますから、赤本は、主に志望校の出題傾向を理解し、大学毎の一般入試に向けて実力をつけるために使います。効果的な活用方法を紹介しましょう。

### ① 解き始める時期

高校での学習の基礎固めを終え、高校3年生の夏休み頃から本格的に取り組むのが目安です。志望する大学がはっきりしているのであれば、1、2年生の間から「入試ではどんな問題が出るのかな？」と試しに1年分見てみるのもいいでしょう。興味を持った人は、気軽に進路資料室を覗いてみてください。

### ② 本番と同じ条件で解く

赤本は「問題集」ではなく「本番シミュレーションツール」です。制限時間を守り、途中で答えを見ずに解いてみましょう。

### ③ 解いた後に振り返りを行う

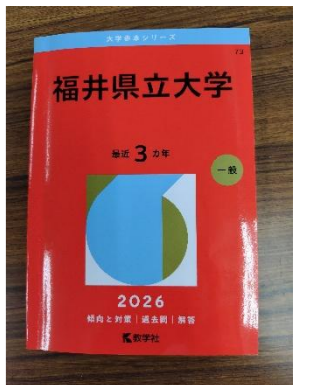
赤本は解いた後の振り返りが最も重要。なぜ間違えたのか（知識不足／時間不足／読み違い）、解けた問題も「根拠を説明できるか」について確認しましょう。

### ④ 繰り返し解く

1回解いて終わりでは不十分です。間違えた問題は必ず解き直し、2回目は時間短縮を意識しましょう。

### ⑤ 志望校の傾向を分析する

赤本には、各大学の出題傾向が表れています。よく出る単元、記述の分量や難易度、時間配分の特徴などに注目しましょう。「合格するための戦略」を立てることができます。



## ■最後に

赤本は「何年分解いたか」ではなく、どれだけ深く活用したかが重要です。ただ解くだけでなく、「分析→改善→再挑戦」を繰り返すことで、合格に近づきます。そういう意味では、模擬試験などと同じです。3年生は4月・6月・7月に、1、2年生は7月に県模試を受験しましたね。まずは志望校の特徴を知り、自分の弱点と向き合い、戦略を立てて、実力を高めていきましょう。